

令和３年度
事業報告書

令和３年 ４月 １日から
令和４年 ３月３１日まで



公益財団法人木原記念横浜生命科学振興財団

目次

事業概況及び課題等	1
I 生命科学に関する学術振興及び知識普及啓発事業	2
1 学術奨励事業	
(1) 木原記念財団学術賞	
2 知識普及啓発事業	
(1) 木原記念こども科学賞	
3 情報発信	
II 生命科学に関する共同研究開発等の企画及び推進事業	5
1 共同研究	
(1) 共同研究開発の創出・推進	
(2) 官民共同による重篤副作用バイオマーカー開発事業	
2 研究開発等助成事業	
III 生命科学の応用による産業活性化の支援事業	8
1 事業化支援	
(1) 横浜ライフイノベーションプラットフォーム（LIP. 横浜）の推進	
(2) 地域新成長産業創出促進事業費補助金（地域産業デジタル化支援事業）事業	
2 ネットワーク促進、活用事業（マッチング）	
(1) 横浜・神奈川バイオビジネス・ネットワークの運営	
(2) バイオベンチャーアライアンス（BVA）の運営	
3 出展支援・広報	
(1) BioJapan 2021 出展支援	
(2) 広報物の作成等	
(3) 「コネクト」メンタリングプログラム運営支援	
4 クラスター連携事業	
(1) クラスター連携	
IV 生命科学に関する産業集積・技術支援のための研究開発施設の設置及び管理運営	16
1 横浜バイオ産業センター（YBIC）事業	
V 理事会・評議員会・監査	17
1 理事会	
2 評議員会	
3 監査	
VI 事務局	17

事業概況及び課題等

令和3年度においては、横浜市との協約等に基づき、「健康・医療」分野を中心に定款に定める4つの事業に取り組みました。

「学術振興及び知識普及啓発」としては、30回目を迎えた木原記念財団学術賞の決定や、木原記念こども科学賞の授与を継続して実施しました。

「共同研究開発等」では共同研究開発の創出・推進を行ったほか、官民共同による重篤副作用バイオマーカー開発事業に関して、覚書の締結やAMEDへの報告を行ったほか、LIP. 横浜トライアル助成事業を実施し、中小・ベンチャー企業や大学等研究機関の研究成果、臨床ニーズ等の実用化に向けた支援を行いました。

「産業活性化の支援」としては、横浜ライフイノベーションプラットフォーム（LIP. 横浜）による市内中小企業、大学等研究機関等での様々な研究開発プロジェクトの支援・創出などを横浜市と共に行いました。

また、横浜・神奈川バイオビジネス・ネットワークなどのネットワークを活かし、バイオビジネスのマッチングセミナー等を企画開催するとともに、バイオジャパンへの出展支援などを行いました。

バイオ関連企業や研究機関を支援する賃貸型研究施設である横浜バイオ産業センター（YBIC）については、消毒用アルコール設置など、コロナウイルス対策を図るとともに、居室の一部LED化への改修を実施するなど、良好な研究環境を提供しました。

さらに、新型コロナウイルス感染症による事業活動への影響を最小限に抑えるため、オンラインの活用や、テレワーク等を推進しながら、各種業務に取り組みました。

今後も生命科学の振興とその応用による産業の活性化に寄与できるよう、中・長期的な視点に立って事業の改善や財政基盤の安定化に取り組み、持続可能な財団経営を目指してまいります。

I 生命科学に関する学術振興及び知識普及啓発事業

(事業費支出 6 百万円)

1 学術奨励事業

(1) 木原記念財団学術賞【公益目的事業区分（以下「区分」）：表彰・コンクール】

ア 第30回木原記念財団学術賞の選考

生命科学の分野で優れた独創的研究を行っている研究者（満 50 歳以下）を表彰するため、「第 30 回木原記念財団学術賞」を実施し、受賞者を決定しました。

推薦募集をオンライン受付へと形式変更し、選考委員会はオンラインで開催、選考資料は全てをデジタル化しました。コロナ禍による選考行程への影響は最小限にとどめ、事業のデジタル化をより一層進めることができました。

＜受賞者＞ 杉本 慶子 氏（国立研究開発法人理化学研究所 環境資源科学研究センター チームリーダー）

＜受賞研究＞ 「植物の器官形成を司る分子機構の解明」

◇募集期間：令和 3 年 6 月 1 日（火）～9 月 30 日（木）

◇推薦依頼先：224 か所（内訳：学会 54、研究所 22、大学 121、過去受賞者 27 名）

◇推薦数：14 件

イ 第29回木原記念財団学術賞贈呈式の実施

令和 2 年度に実施した「第 29 回木原記念財団学術賞」の贈呈式を開催しました。

◇開催日：令和 3 年 10 月 1 日（金）

◇会 場：新横浜プリンスホテル 小会議室

◇受賞者：吉村 崇 氏

（国立大学法人東海国立大学機構名古屋大学 トランスフォーマティブ生命分子研究所 教授）

◇受賞研究：「脊椎動物の季節適応機構の解明」



贈呈式記念撮影

※感染症予防の観点より、財団関係者のみで贈呈式を行いました。

ウ 第28・29回木原記念財団学術賞記念講演会の実施

感染予防の観点より見送った令和元年度及び、令和2年度の受賞記念として、オンライン形式にて講演会を開催しました。後述の情報発信との相乗効果を見込み「ゲノム説90周年記念 木原記念財団学術賞記念講演会」と銘打ち、ライフサイエンス分野の研究者の参加が多く見込まれる、日本生化学会の年次大会を活用しました。

- ◇開催日：令和3年11月5日（金）11:10～13:45
 ◇会場：第94回日本生化学会大会 ランチョンセミナー枠
 ◇プログラム：
- ・国立遺伝学研究所名誉教授 広海 健氏
 - ・第28回受賞者 国立遺伝学研究所 北野 潤氏
 タイトル：野生動物の表現型多様化の原因遺伝子の解明
 - ・第29回受賞者 名古屋大学 吉村 崇氏
 タイトル：脊椎動物の季節適応機構の解明
 - ・常務理事 鈴木 榮一郎
 タイトル：ゲノム説90周年と木原記念学術賞
 - ・横浜市立大学名誉教授 荻原 保成氏
 タイトル：木原均博士のゲノム説90周年
- ◇参加者：298名



2 知識普及啓発事業

(1) 木原記念こども科学賞 【区分：表彰・コンクール、体験活動等】

身近な動物や植物に親しむことで、次代を担うこどもたちの科学の芽を育むことを目的として「第29回木原記念こども科学賞」を実施しました。

神奈川県内の小・中学生を対象として、観察、調査、実験等の作品を募集した結果、317作品（58校）の応募をいただき、主に小中学校の教員で構成される選考委員会による選考を経て、25作品が入選し、表彰式を開催しました。昨年度に引き続き今年度も地域の企業、バイオ関連企業、研究者等からの寄附をいただき、感染症対策として、表彰式の会場を産業貿易センターに変更するなど、コロナ禍に対応した事業運営を行いました。

受賞作品や講評をまとめた作品集を財団のホームページに掲載しています。

《募集概要》

- ◇期間：令和3年7月1日（木）～9月30日（木）
- ◇後援：〔教育委員会〕神奈川県教育委員会、川崎市教育委員会、相模原市教育委員会、横浜市教育委員会
〔研究機関〕横浜市立大学木原生物学研究所、海洋研究開発機構
〔企業〕株式会社神奈川新聞社、株式会社横浜銀行、横浜信用金庫
- ◇寄附： 横浜市内企業等6社、個人7名
- ◇募集先：神奈川県内 全小・中学校
- ◇応募数：317作品（小学校低学年132、小学校高学年147、中学校38）

《選考結果》

	最優秀賞	優秀賞	努力賞	神奈川新聞社賞
小学校低学年の部	2	3	4	1
小学校高学年の部	1	3	4	1
中学校の部	1	1	3	1

《表彰式概要》

- ◇開催日
令和3年12月5日（日）
- ◇会場
産業貿易センター9F
レセプションルーム
- ◇表彰
最優秀賞4件、優秀賞7件、
努力賞11件、神奈川新聞社賞3件



第29回 木原記念こども科学賞 表彰式 2021年12月5日

3 情報発信【区分：その他】

財団のホームページや財団の有するネットワークを通じて、生命科学の振興に役立つ情報を発信します。令和3年度は、セキュリティや使い勝手を向上させた新しいWebページを作成・公開しました。

木原均博士によるゲノム説確立から90周年を記念し、学術賞のオンライン記念講演会の場を活用し、特別講演を実施しました。

- ◇開催日：令和3年11月5日（金）11:10～13:45
- ◇会場：第94回日本生化学会大会 ランチョンセミナー枠
- ◇プログラム：
 - ・国立遺伝学研究所名誉教授 広海 健氏
 - ・第28回受賞者 国立遺伝学研究所 北野 潤氏
タイトル：野生動物の表現型多様化の原因遺伝子の解明
 - ・第29回受賞者 名古屋大学 吉村 崇氏
タイトル：脊椎動物の季節適応機構の解明
 - ・常務理事 鈴木 榮一郎
タイトル：ゲノム説90周年と木原記念学術賞
 - ・横浜市立大学名誉教授 荻原 保成氏
タイトル：木原均博士のゲノム説90周年
- ◇参加者：298名

II 生命科学に関する共同研究開発等の企画及び推進事業

（事業費支出 21 百万円）

1 共同研究開発事業等

（1）共同研究開発の創出・推進【区分：相談・助言】

神奈川県域に立地するライフサイエンス分野の企業及び大学等研究機関が連携する、社会実装が有望視される研究開発プロジェクトの創出・推進を支援しました。特に、研究助成した大学の研究テーマを企業に橋渡しし、共同研究を創出しました。

（2）官民共同による重篤副作用バイオマーカー開発事業【区分：技術開発・研究開発】

平成27～令和元年度に実施した、日本医療研究開発機構（AMED）からの受託事業であった当該研究の成果に関して特許出願を行うため、共同研究者である国立医薬品食品衛生研究所、民間製薬企業と覚書締結やAMEDへの報告等を行いました。

今後も事業終了後のAMEDへの報告等、必要に応じて対処してまいります。

2 研究開発等助成事業【区分：助成（応募型）】

中小・ベンチャー企業や大学等研究機関の研究成果、臨床ニーズ等の実用化に向け、アイデアを具体化する試作品開発やデータ検証等にかかる費用を助成しました。また、助成対象となる企業等の探索から申請書作成支援、助成金執行管理に係る支援を行いました。

【名称】 LIP. 横浜トライアル助成事業

【助成率】 10/10 以内

【助成限度額】 100 万円

【実施結果】 採択件数 21 件（第一次採択 17 件、第二次採択 4 件）

【交付額】 18,478,603 円

交付決定事業者（21 件）

	企業・団体名	事業計画の名称
第一次採択向け		
1	横浜市立大学 大学院生命医科学研究所	BRD4 を標的とした COVID-19 治療薬のための構造基盤研究
2	慶應義塾大学理工学部	ハイパースペクトルを利用した非染色イメージング技術の開発
3	神奈川県立がんセンター 臨床研究所 がん予防・情報学部	拡張知能（AI）を活用した効率的な遺伝性腫瘍診療システムの開発と実証
4	ピンポイントフォトニクス株式会社	顕微鏡用 XY ステージ・カメラ連携システムの開発
5	国立大学法人 東京工業大学 生命理工学院	中分子ペプチド医薬デジタル放出デバイスの開発
6	神奈川県立こども医療センター 整形外科	乳児股関節健診における単純 X 線画像の Deep Learning 診断補助技術の開発
7	株式会社グライコテクニカ	糖鎖変化を利用した尿診断キットの開発
8	横浜市立大学附属市民総合医療センター 心臓血管センター内科	表情画像と音声情報の AI 分析による心不全増悪予測モデルの開発

9	神奈川県立がんセンター 臨床研究所 分子病態学部	患者由来オルガノイドを用いた2型子宮体癌の有効治療薬探索
10	横浜市立大学附属病院脳神経外科	分子標的アプローチによるグリオーマ関連てんかんの制御
11	株式会社ゼオシステム	在宅で排尿速度と量を測定し、尿漏れ、夜間頻尿、尿閉を早期発見する排尿日誌の可視化
12	神奈川県立こども医療センター 臨床研究所	血液がんにおける造血幹細胞移植の迅速・絶対定量キメリズム解析系の構築
13	神奈川県立こども医療センター 形成外科	口唇口蓋裂に対する新しい鼻形態矯正装置の開発
14	横浜国立大学 大学院工学研究院 機能の創生部門	抗インフルエンザウイルス活性ペプチド ウルミンとヘマグルチニンの相互作用の解明
15	横浜市立大学大学院 生命ナノシステム科学研究科	糖脂質の糖鎖構造を解析するレクチン単離技術の開発
16	f-Tech 株式会社	高分子ナノ薄膜技術を活用した身体装着型デバイスの開発
17	横浜市立大学附属市民総合医療センター 形成外科	傷痕治療改革～最適なケロイド・肥厚性瘢痕治療方法の確立～
第二次採択向け		
18	アフォードセンス株式会社	ウェアラブル深部温センサの高精度化
19	MabGenesis 株式会社	癌治療を目的とした新規モノクローナル抗体の研究開発
20	ビネット&クラリティ合同会社	靴の影響による足の変形シミュレーションモデルの構築
21	ジェイファーマ株式会社	新規抗がん薬、JPH203 の薬効予測システムの開発

Ⅲ 生命科学の応用による産業活性化の支援事業

(事業費支出 58 百万円)

1 事業化支援

(1) 横浜ライフイノベーションプラットフォーム (LIP. 横浜) の推進

【区分：相談・助言、講座・セミナー・育成】

「LIP. 横浜」補助事業の一環として、横浜市内のライフサイエンス系企業・研究機関に対する以下のような支援を通じ、研究開発を推進しました。

ア LIP. YOKOHAMA BIBLIO の運営

研究開発シーズの事業化支援の一環として、研究開発情報や専門知識、人的ネットワークに効率的にアクセスしてアイデア創出を促す、物理的な「支援の場」(LIP. YOKOHAMA BIBLIO) を運営しました。

セミナーはオンラインで5回開催し、延べ523人の参加者を集めました。

- ◇訪問人数：延べ 36 名
- ◇相談件数：延べ 17 件
- ◇セミナー開催：5 回
- ◇セミナー参加者（延べ）：523 名
- セミナータイトル※抜粋
 - ・「2021 年度 LIP. 横浜トライアル助成金説明会」
 - ・「技術の強みや特徴を改めて分析してみよう～その重要性と具体的手法を学ぶオンラインセミナー～」
 - ・「LIP. YOKOHAMA BIBLIO セミナー 展示会出展成果を最大化するために」
 - ・「Yokohama Healthtech Spotlight 2021」
 - ・「横浜から健康・医療のイノベーションが芽生える～LIP. 横浜トライアル助成金事業成果報告会～」



イ クロスイノベーションカンファレンス

ライフサイエンスやヘルスケア分野での新規事業を検討する異分野の大企業と、市内中小・ベンチャー企業等とのマッチング・個別商談会を開催しました。

- ◇タイトル：LIP. 横浜オープンイノベーションカンファレンスⅦ ～クロスイノベーション（異分野融合）による 新たな事業機会の創出を目指して～
- ◇開催日時：令和3年12月15日（水）～17日（金）10時～17時
- ◇会場：オンライン（EventHub プラットフォーム）
- ◇参加者：大企業7社、市内大学9機関、中小・ベンチャー企業15社
- ◇来場者数：334名
- ◇マッチング件数：112件

ウ LIP. 横浜トライアル助成事業（再掲）

市内企業や大学等の研究成果、臨床ニーズ等の実用化に向け、アイデアを具体化する試作品開発やデータ検証等にかかる費用を助成する「LIP. 横浜トライアル助成事業」について募集・選定を行い、計21件について交付を決定しました。

XYステージカメラの製品化やタンパク質総合作用解析技術の特許出願および受託事業開催など、市内中小企業等による開発の成果につながっています。

- ◇助成金名称：LIP. 横浜トライアル助成事業
- ◇対象者
横浜市内に立地する中小企業、大学等研究機関、病院など
- ◇対象事業
健康・医療分野の基礎研究成果や臨床ニーズ等の実用化に向けた産学連携事業の推進につながる事業
 - ・研究成果やアイデアなどを具体化する部品・製品・ソフトウェアの開発や試作品の開発
 - ・研究成果やアイデアに基づく仮説を検証し、次の研究ステップに進むために必要となるデータ等の取得
- ◇助成率 対象経費の10/10以内
- ◇助成限度額 100万円/件
- ◇助成対象期間 交付決定日から令和4年2月末日

エ ヘルスケア関連事業

「横浜ライフイノベーションプラットフォーム（LIP. 横浜）」において、市内中小企業等のヘルスケアに関連するビジネス機会の創出及び研究開発の実用化に向け、産業動向や学術的な情報を収集、提供することにより、ヘルスケア関連領域への新規参入やビジネスアイデアの創出を促し、事業化を支援するための事業を実施しました。

ヘルスケアに関連する産業動向、市内企業の市場調査を行ったほか、市内ヘルスケア企業が利用できる電子書籍検索サービス「メディカルオンライン」を購読しました。また、これを活かした専門家による無料相談を行いました。

さらに、「ヘルステック領域」における医療とAIの融合を目指して医療分野で求められているAI技術を伝えるセミナーをオンラインで開催しました。

オ オンライン展示会開催

LIP. 横浜において中小・ベンチャー企業と大学・研究機関、大手企業の参加が増え、ネットワークが拡大しています。このネットワーク拡大を好機と捉え、市内中小企業の独自性・競争優位性のある製品や技術をWEBで公開展示し、興味をもつ企業からのアプローチを受け付ける「オンライン展示会」を開催し、技術連携・販路拡大の充実を図りました。「オンライン展示会」の開催にあたっては、LIP. 横浜会員企業等が閲覧することによりマッチング機会の創出につなげ、展示内容を効果的にPRできるよう、企画・運営を行いました。第1回応募企業は「LIP. YOKOHAMA技術紹介WEBサイト」にてオンライン展示し、第2回応募企業はLIP. 横浜ホームページにて展示しました。

【第1回】

- ・募集期間：2021年5月12日（水）～2021年6月30日（水） 応募社数：15
- ・ヒアリング期間：2021年7月1日～2021年8月31日

企業名	ヒアリング日
株式会社ミレニア	2021年7月9日
株式会社横浜熱利用技術研究所	2021年7月20日
株式会社ブラスト	2021年7月8日
株式会社メディカルプロテオスコープ	2021年7月14日
株式会社セルフリーサイエンス	2021年7月1日
日本濾水機工業株式会社	2021年7月19日
ピンポイントフォトニクス株式会社	2021年7月6日
パルステック工業株式会社	2021年8月6日
有限会社宮本興産	2021年8月6日
株式会社アサイエンジニアリング	2021年7月19日
株式会社海月研究所	2021年7月14日
株式会社グライコテクニカ	2021年7月9日
株式会社サイトパスファインダー	2021年7月20日
Vignette & Clarity 合同会社	2021年7月27日
株式会社クロスウェル	2021年7月26日



LIP.YOKOHAMA 技術紹介 WEB サイト

【第2回】

- ・募集期間：2021年11月19日（金）～2021年12月17日（金） 応募社数：12
- ・ヒアリング期間：2022年1月5日～2022年3月9日

企業名	ヒアリング日
CoreTissue BioEngineering 株式会社	2022年1月12日
横浜バイオテクノロジー株式会社	2022年1月19日
株式会社ファルネックス	2022年3月9日
アットドウス株式会社	2022年1月7日
センサーコントロールズ株式会社	2022年1月19日
アフォードセンス株式会社	2022年3月4日
ダンシングファン株式会社	2022年1月21日
株式会社テレメディカ	2022年1月7日
リスク計測テクノロジーズ株式会社	2022年1月28日
株式会社分子ロボット総合研究所	2022年1月21日
UNTRACKED 株式会社	2022年2月2日
AIC-VISION 株式会社	2022年1月13日

カ 個別支援等

横浜市内の中小企業及び大学等研究機関が実施する研究開発プロジェクトを支援するとともに、新たな研究開発プロジェクトの創出に向けた支援を実施しました。

マッチングを行った130件中の7件と助成対象となった21件の計28件についてプロジェクト創出を支援し、大学の研究促進や産業化支援、ベンチャー企業の事業促進等の成果につなげました。

◇個別相談支援件数：173 件
◇プロジェクト件数：28 件

◇マッチング件数：130 件

(2) 地域新成長産業創出促進事業費補助金（地域産業デジタル化支援事業）事業

経済産業省事業令和3年度「地域新成長産業創出促進事業費補助金（地域産業デジタル化支援事業）」に採択され、「地域ヘルスケア産業のデジタル化促進事業」として、下記事業を行いました。

ア ビジネスモデル実証支援

間接補助事業者として株式会社プレイケアを支援し、デジタル活用による新しい健康サービスを提供する通いの場「デジタルヘルスケアラボ」を構築しました。

イ ビジネスモデル実証予備群の発掘

ヘルスケア領域におけるニーズシーズをマッチングし、新たなビジネスモデルの構築を促す試みとしてマッチングカンファレンスを開催しました。マッチングカンファレンスではニーズ企業7社、シーズ企業3社が登壇し、来場者とのマッチングを図りました。

開催日：2022年1月21日（オンライン開催）
参加者：169名
マッチング数：19件

ウ 事例整理・普及展開

ヘルスケア領域における大きなマーケットとして自治体や大手企業が考えられます。そこで、自治体や大手企業のニーズをピッチし、来場者であるデジタルヘルス事業者がニーズ解決方法を提案する「ガバメントピッチ」を開催しました。ガバメントピッチでは6つの自治体、2つの大手企業がニーズや課題をピッチしました。

開催日：2021年10月25日（オンライン開催）
参加者：441名
マッチング数：40件
プロジェクト組成数：12件

2 ネットワーク促進、活用事業（マッチング）

（１）横浜・神奈川バイオビジネス・ネットワークの運営【区分：該当なし】

横浜・神奈川バイオビジネス・ネットワークを活用し、産業活性化に資する各種情報やセミナー等の情報を発信しました。

（２）バイオベンチャーアライアンス（BVA）の運営【区分：該当なし】

横浜・神奈川バイオビジネス・ネットワーク内の企業・大学などの連携体であるBVAの事務局として、中小・ベンチャー企業に対し、異分野機関との交流の場（定例会）や外部講師を招いた勉強の場（勉強会）を提供するとともに、各種相談や公募情報等の提供、企業間連携のコーディネートなど事業発展につながる支援を行いました。

- ◇会員数（令和4年3月末）：89社・機関（対前年度比12増）
- ◇主な取組：各種相談や公的資金に関する情報提供、企業間連携のコーディネートなど事業発展につながる支援や定例会の開催（4回）、分科会開催（14回）など

3 出展支援・広報

（１）BioJapan 2021 出展支援【区分：展示会・〇〇ショー、相談・助言】

域内に立地する中小企業の出展や販路拡大等を支援するため、横浜市、川崎市と連携し、横浜市内企業等で構成するパビリオンを設け、研究開発用ツールや受託サービスに関する技術の情報発信や商談等を支援しました。

コロナ禍での開催となりましたが、接触を回避するためのパビリオン導線や、ワークスペースの確保など、工夫を凝らしたパビリオンを設計し、例年と同程度数の企業の参加を支援し、パビリオン運営を行いました。

- ◇開催日時：令和3年10月13日（水）～15日（金）
- ◇会場：パシフィコ横浜
- ◇来場者数：14,891名（主催者発表）
- ◇パビリオン出展：30社・機関（うち横浜市内企業・団体15）

BioJapan 2021の様子



（２）広報物の作成等【区分：展示会・〇〇ショー、相談・助言】

LIP、横浜及び財団による、研究者と起業家に対する支援を周知するための動画を作成しました。財団による伴走支援をPRするイメージ動画として、今後広くイベント等で活用する予定です。

（３）「コネクト」メンタリングプログラム運営支援【区分：相談・助言】

米国サンディエゴを中心に活動する起業家支援組織「コネクト」と連携して、同組織が横浜市内中小・ベンチャー企業等に対してメンタリングができるようプログラム運営に協力し、当該プログラムを通して中小企業等の外部資金獲得に向けたプレゼンテーション力向上等を支援しました。

公募により横浜市内企業等計３社を選定し、約３か月にわたる「コネクト」によるメンタリングに伴走しました。メンタリング後、サンフランシスコの投資家に向けたオンラインピッチイベントを開催し、資金調達の提案をしました。

◇コネクト

米国サンディエゴにおいて 3,000 社以上のスタートアップ支援実績を持つ起業家支援組織



コネクトメンタリングプログラム受講の様子

4 クラスター連携事業

(1) クラスター連携【区分：該当なし】

ライフサイエンス資源の発掘や育成に地域で取り組む公益財団法人に声かけを行い、各地域の支援内容・成功事例等の情報共有や、地域を超えた共同研究・事業連携等の創出に向けた意見交換などを行う場を設けました。

◇開催：2回

◇日時：第一回 令和3年6月17日（木）、第二回 令和4年1月19日（水）

◇場所：第一回 オンライン、第二回 オンライン

◇参加団体（50音順）：

アグリオープンイノベーション機構、沖縄科学技術振興センター、
かずさDNA研究所、神奈川産業振興センター、川崎市産業振興財団、
木原記念横浜生命科学振興財団、久留米リサーチ・パーク、とっとりバイオ
フロンティア、名古屋産業科学研究所 中部TLO、
ふじのくに医療城下町推進機構 ファルマバレーセンター、
北海道科学技術総合振興センター ノーステック財団、
マリンオープンイノベーション機構

計 12 機関

IV 生命科学に関する産業集積・技術支援のための研究開発施設の設置及び管理運営

1 横浜バイオ産業センター（YBIC）事業 【区分：施設の貸与】

（事業費支出 127百万円）

バイオ産業集積の拠点として、横浜バイオ産業センター（YBIC）の貸室貸与により、バイオ関連企業や研究機関の研究開発を支援しました。令和3年度は2室の退去がありましたが、速やかに入居者募集・選定を実施し、3月末現在で入居率100%を維持しています。

運営にあたっては、玄関へのアルコールの設置や、会議室や共用部におけるアルコール消毒の徹底など、コロナ対策を実施しました。また、防災訓練等を実施し、不測の事態への対応方法の確認を行うなど、良好な研究環境維持に努めました。

YBICは、建設から10年以上が経過しているため、経年劣化に対応する修繕や、退去の機会を活用した居室照明のLED化改修等を実施しました。

- ◇安全管理協議会： 令和3年10月5日（火）開催
- ◇防災訓練： 令和3年10月19日（火）実施
- ◇令和3年度に実施した主な設備補修：居室の一部LED化改修、経年劣化により詰まりが生じたドレン配管の更新、居室エアコンの点検・洗浄作業等の実施



YBIC 外観

V 理事会・評議員会・監査

1 理事会

理事会は、Web および決議の省略により開催しました。

- (1) 第1回理事会 令和2年度決算他（令和3年6月11日 Web 開催）
- (2) 第2回理事会 代表理事選出（令和3年6月28日 Web 開催）
- (3) 第3回理事会 第一次補正予算（決議の省略 令和3年8月23日提案 31日決議）
- (4) 第4回理事会 学術賞他（決議の省略 令和3年11月15日提案 22日決議）
- (5) 第5回理事会 令和4年度予算他（令和4年3月23日 Web 開催）
- (6) 第6回理事会 理事の選任（決議の省略 令和4年3月25日提案 26日決議）

2 評議員会

評議員会はWeb および決議の省略により開催しました。

- (1) 第1回評議員会 令和2年度決算他（令和3年6月28日 Web 開催）
- (2) 第2回評議員会 評議員の選任他（決議の省略 令和3年12月2日提案 10日決議）
- (3) 第3回評議員会 理事の選任他（決議の省略 令和4年3月28日提案 30日決議）

3 監査

令和2年度決算について、令和3年5月24日、5月27日、5月31日に、監事により往査が実施され、6月11日の理事会で、事業報告書並びに財務諸表は適正であると認めること、理事の職務執行に関する不正行為又は法令若しくは定款に違反する重大な過失がないと認める旨、監査報告がありました。

VI 事務局

国等の要請に従い、在宅勤務を継続するとともに、職員各々が感染予防に努めました。

在宅勤務での就業状況の把握、情報漏洩の防止、連絡手段等について、職員の利便性にも配慮しながら、クラウドやグループウェアを活用するなど、在宅勤務を推進しました。

また、働き方改革や労働法の改正に伴い、就業規程の改定を行ったほか、ハラスメント防止対策として、外部講師による研修を実施する等就業環境の整備に取り組みました。

さらに、全職員を対象とした情報セキュリティ研修を実施したほか、WEB ページの改修を進めるなど、情報セキュリティ対策を推進しました。